

令和7年度 第2回志布志市総合教育会議 議事録

- 1 開催日時 令和7年11月11日（火）
開会 午後4時00分 閉会 午後4時35分
- 2 場 所 志布志市役所 志布志庁舎4階 庁議室
- 3 議 題
 - (1) 報告
志布志市松山地域学校統合準備委員会について
 - (2) 協議
 - ア 学びの多様化学校の校名の選定について
 - イ 志布志市立学校条例の一部を改正する条例（案）について
 - ウ 教育課程の改善について

4 出席者（出席構成員）

志布志市長	下平晴行
教育長	福田裕生
教育委員	松原治美
教育委員	島津陽亮
教育委員	津町千代子
教育委員	益田裕子

（事務局）

志布志市副市長	溝口 猛
総務課長	鮎川勝彦
総務課行政グループリーダー	下出克也
教育総務課長	児玉雅史
教育総務課総務施設グループリーダー	橋本淳二
教育総務課学校給食グループリーダー	本田博文
学校教育課長	淀 修司
学校教育課参事兼学校教育グループリーダー兼指導主事	濱田浩司
学校教育課参事兼指導主事	前畑あさよ
学校教育課学事グループリーダー	川崎喜代人
生涯学習課長	河野尚仁
生涯学習課社会教育グループリーダー	和佐修一
生涯学習課文化財管理グループリーダー	小村美義

5 会議の経過

午後4時00分 開会

○ 開 会

【鮎川課長】

皆様、御起立ください。

ただ今から、令和7年度第2回志布志市総合教育会議を開催いたします。よろしくお願いいたします。

御着席ください。

本日は、御多用のところ御参集いただきましてありがとうございます。限られた時間ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

出席者におきましては、会議資料2枚目の名簿を御覧いただきたいと思います。

それでは、会次第に沿って進めさせていただきます。

まず、はじめに、開会に先立ちまして、下平市長が挨拶を申し上げます。

○ 市長挨拶

【下平市長】

皆さん、こんにちは。

令和7年度2回目の総合教育会議ということで、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回は、報告1件、協議が3件あります。協議の1つ目は、学びの多様化学校の校名の選定ということで、これまでも様々な意見があり、検討委員会でも審議してきたことだと思います。

2つ目は、学校条例の一部を改正する条例（案）ということで、学びの多様化学校の新設と伊崎田中学校の所在変更という内容になっているようです。

3つ目は、教育課程の改善ということで、限られた時間ではありますが、本日の会議が実り多いものになりますよう、皆様の忌憚のない御意見を賜りますことをお願い申し上げまして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○ 議 題

【鮎川課長】

それでは、早速ではありますが、会次第3の議題に入りたいと思います。

会議の議長につきましては、設置要領により、市長が務めることになっておりますので、市長よろしくお願いいたします。

【下平市長】

まず、報告案件の、志布志市松山地域学校統合準備委員会（以下「準備委員会」という。）についてです。別紙にアンケート結果も準備されているようですので、そのことも踏まえて事務局による説明

をお願いします。

○ 報 告

【児玉課長】

1 ページを御覧ください。第1回目の準備委員会を、10月29日水曜日に開催しました。委員は、各小中学校の校長先生や地域、PTAの代表等の21人で構成しております。

会の内容は、下段にあります報告として、松山地域児童生徒へのアンケート報告を行った後に、議事として、1つ目に、準備委員会の基本的な考え方及び今後の進め方等について、2つ目に、準備委員会専門部会についてを協議していただきました。

まず、報告のアンケート結果ですが、別冊の1 ページを御覧ください。1-(1)のアンケートの目的は、児童生徒に「教育のまち 松山」について、主体的に考えていただくことを目的としています。(2)の対象者は、松山地域の全ての小学生と中学生としております。(3)のアンケートの方法は、WEB回答で、ホームルーム等の時間を活用して回答していただきました。(4)のアンケート期間は、9月19日に学校へ依頼し、10月17日まで実施いたしました。2のアンケートの結果ですが、回答率は小学生が95%、中学生が92%、合計で94%になっています。3の小学生への設問では、問3から問8まで、6つの質問を行いました。4の中学生への設問では、問2から問7まで、6つの質問を行いました。内容については、中学生向けに表現は変えてありますが、小中学生とも同じ質問になっています。

2 ページを御覧ください。各質問における回答の傾向をまとめてあります。上段の小学生の結果ですが、問1・2については、学校や学年を誤って選択していると思われる回答がありました。問3の「新しい学校になることで、あなたが楽しみにしていることやワクワクしていることはどんなことですか。」の問いには、友達が増えることや他校児童との交流への期待が圧倒的であり、児童たちは新しい環境でたくさんの友達を作りたいと考えていることや、高学年になるほど、学校施設や行事の充実に対する関心が高まっていることが分かりました。問4の「新しい学校で、どんなことをやってみたい・学んでみたいですか。」の問いには、遊びや体を動かす活動への期待が全学年共通で高くなっており、行事、授業や昼休みなどを活用し、協力して行う活動を通して、楽しさや達成感、交流できる機会を求めていることなどが分かりました。問5の「松山小学校・泰野小学校・尾野見小学校・松山中学校の児童生徒が仲良くなるためにどんなことをやってみたいですか。」の問いには、遊びや運動など学校を超えた交流の場を求めていること、特に、ドッジボール、鬼ごっこといった遊びや自己紹介などの会話を通じて相手を知る機会

求めていることが分かりました。問6の「こんなものがあつたらもっと学校に行きたくなる、あつたらいいなあこんなものを教えてください。」の問いには、遊具の充実や遊ぶ時間の確保など、学校生活を楽しむ要望が多数ありました。また、冷水機、エアコンの設置といった学校生活を快適にするための希望が多くありました。高学年になると制服の撤廃、宿題を減らすといった学校ルールの規制緩和を求める意見も比較的多くありました。問7の「あなたが新しい学校の校長先生だとしたら、どのような学校にしたいですか。」の問いには、全ての学年に共通して「楽しい学校」という意見が最も多くありました。また、いじめやケンカがない安心感や仲良く生活できる環境を望んでいることも分かりました。問8の「新しい学校へのあなたの思いを教えてください。」の問いには、「楽しみ」「ワクワク」「友達と仲良くしたい」といった前向きな意見が多く、新しい学校への期待感が大きいことが分かりました。また、いじめやケンカがないことを重要視しており、安心して過ごせる環境を求めている一方で、新しい環境への適応や新しい友達との出会いへの不安の声も一部（心配6件、不安3件、今のままでいい3件）ありました。

しかし、心配・不安と回答した児童については、心配不安が大きいのかというと、3ページを御覧ください。松山小学校の3番から5番までの児童ですが、一番右端の欄に「少し心配」や「心配」と記載がありますが、左側の設問3の回答を見ていただけると分かるのですが、「すぐにお友達ができるのが楽しみです」、「新しい人と会えるのが楽しみです」と書いており、とても楽しみだけど不安があるということだと思われます。ほかに心配などと記載した児童の回答傾向も同様でしたので、統合までに心配や不安を取り除くための取組が必要だと感じました。中学生については、統合時には在籍していないこともあり、不安や心配といった回答はありませんでした。

以上を説明した上で、議事に入り、議事1、準備委員会の基本的な考え方及び今後の進め方等については、会議資料の2ページを御覧ください。1の基本的な考え方、2の今後の進め方について協議を行いました。2ページ中段の表にありますが、専門部会で協議したことを、準備委員会で決定し、教育委員会、市で決定していくこととしています。3つの部会につきましては、3ページの総務部会が松山小学校長を部長に20人で構成し、4ページの学校運営・教務部会が泰野小学校長を部長に12人で構成し、5ページの通学・制服・PTA部会が尾野見小学校長を部長に13人で構成することとしています。

議事の2、準備委員会専門部会については、6ページを御覧ください。専門部会での協議事項（案）について、協議していただきま

した。各部会とも年内に第1回目を開催し、それぞれこの表にある事項について協議していただくことを確認しました。特に「学校運営・教務部会」については、次年度の交流事業を早急に検討する必要があることから、11月6日に開催されることをお伝えしました。7ページは、今後のスケジュール案になります。今年度中は、統合準備委員会、各部会とも2回ずつ開催し、8年度からの協議方針等をまとめていきたいと考えております。8年度以降は、年3回ずつの開催を予定しております。その他については、お目通しください。

これらを協議する中で、委員から、「通学・制服・PTA部会」には、これから小学生になるこども園の保護者も加えた方が良いのではないかという提案がありましたので、第1回目の部会の中で、提案し、2回目の部会には委員として参加していただきたいと考えております。

以上で報告を終わります。

【下平市長】 ただ今の説明及び資料内容について、皆様からの御意見や御質問はありませんか。

【松原委員】 アンケートの結果を受けて、子供目線と大人目線とでは、随分、その結果内容が異なると感じました。例えば、統合についての大人の意見では、過疎化を危惧するような内容が多いですが、子供たちからは、楽しい場面や過ごし易い環境を望むような意見が多いように感じました。子供たちの目線による意見を大事にしていくことの方が、全体として良い方向に向かうのではと思うところです。

また、準備委員会委員の充て職になっている校長先生方も、統合が実現する頃には、大多数の先生が本市にいないことになろうかと思いますので、しっかりと繋いでいくことが大事だと感じたところです。

【下平市長】 ありがとうございます。今、意見のあった引継事項について、児玉課長から何か説明がありますか。

【児玉課長】 異動や転職で委員が変わっていくことへの懸念については、準備委員会の中でも委員から意見があったところです。事務局としては、開催ごとに議事録要旨を作成し、新たに委員になられた方に資料として配布して、概要を説明しながら引き継いでもらおうと考えています。

【下平市長】 それでは、よろしいでしょうか。

【松原委員】 先日、開催された秋の陣まつりの会場で、松山地域の方々と話をする機会がありましたが、統合について、ほとんどの方が前向きな意見で、楽しみにしているような感触を受けました。

【益田委員】 会議資料2ページの今後の進め方の中で、児童生徒アンケートにあった思いに寄り添ってと記載があり、アンケートの中に車椅子の児童生徒がいるのでエレベーターの設置を望む意見がありましたが、エレベーターの設置も検討されているのでしょうか。

【児玉課長】 現在、基本計画を策定している途中ではありますが、そのような意見に応えられるような施設の整備になればと考えています。

【下平市長】 他に何か意見等がありますか。
特にないようですので、次の(2)協議に移ります。
協議案件は3項目ありますが、最初にアの学びの多様化学校の校名の選定についてを議題といたします。事務局による説明をお願いします。

【淀 課長】 資料8ページを御覧ください。学びの多様化に係る基本構想策定検討委員会（以下「検討委員会」という。）における校名選定の報告になります。まず、校名選定までの経緯についてです。①のインターネットでの校名募集は、40件あり、重複したもの、回答に沿わないもの、ふさわしくないものを除いて、23件に絞り込みました。次に、この23件について、市教育委員会内でアンケート調査を行うとともに、体験通所に通ってきてくれている中学生の意見を参考に検討を行い、11件に絞り込んだところです。そして、検討委員会で協議選定を行い、4件に絞り込んだところです。

次に、選定時の委員等からの意見に基づく留意点について5つをお示ししております。1つ目は、平仮名のかわいらしい印象の校名、〇〇の里のような校名、しぶし〇〇学園のように平仮名のしぶしが入っている校名は、体験通所の中学生が良い印象を持っていないことに留意した方が良いのではないかとということです。2つ目ですが、特別視されるような校名、他の学校名と比べたときに、あたかも特別な名前が想定されるようなものではなく、普通の学校らしい校名がふさわしいと思われます。3つ目は、学校説明会において、児童から「学校」を使って欲しくないとの意見があり、学園の方がふさわしいのではないかとということです。4つ目は、志布志市内、近隣

の企業名・施設名と同じ名称、若しくは似通ったものについては、避けた方が良くのではないかとということです。最後は、履歴書、高等学校受験等を考慮した場合ということで、今後のことを考えると、愛校の念や学園への誇りを抱けるような校名が良いという意見があったところです。

また、この検討委員会に参加いただいている大学准教授の方からも、大人の目線というよりも、子供の目線を大切にしていくことは、とても大事なことでないだろうかとの御意見等もいただいたところです。

このことを受けて、4つの学校名が候補としてまとまりました。1つ目は、「志布志市立悠志（ゆうし）学園」です。これには、学びの多様化学校の基本理念である、ゆっくり、じっくりと、自分のペースで学びを深め、志の精神を持って、志布志の自然、文化、人、物に触れながら、仲間とともに、未来を切り開いていって欲しいという願いが込められております。2つ目は、「志布志市立悠煌（ゆうこう）学園」です。これには、学校は、児童生徒が、穏やかにゆったりと自然体で過ごすことができる安心安全な場所であるとともに、児童生徒一人一人が自分の素晴らしさに気づき、輝き、煌めき、充実した未来を切り拓いて欲しいという願いが込められたものです。3つ目は、「志布志市立志（こころざし）学園」です。これには、ふるさと志布志で、児童生徒一人一人が目標や夢を持ち、他者への感謝の思いを大切にしながら、人や地域のために、そして自分自身の未来のために、志を持って歩んで欲しいという願いが込められております。最後は、「志布志市立志之風（しのかぜ）学園」です。これには、志布志の自然に親しみ、文化を学び、人に触れる中で、どこへでも吹き抜ける風のように、児童生徒が自由な発想を持って、しなやかに未来を歩んでいけるようにという願いが込められております。

以上、検討委員会で選定した、この4つの校名の中から1つを決めていただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【下平市長】 ただ今の説明及び資料内容について、皆様からの御意見や御質問はありませんか。

【松原委員】 この4校の名称を選定する過程において、「志」の一文字を使った校名が多かったと認識しています。

【淀 課長】 ちなみに、検討委員会の中では、「悠」の意味には、ゆっくり、じっくりという意味があり、「悠」を使用している1番目の「志布志市

立悠志学園」と2番目の「志布志市立悠煌学園」が、委員からの意見としては特に多かったでした。

【下平市長】 ありがとうございます。他に何か御質問や御意見はないでしょうか。

【島津委員】 個人的には、1番目の「志布志市立悠志学園」が良いと思いました。

【益田委員】 学びの多様化学校の基本理念を考えると、1番目の「志布志市立悠志学園」が良いと思いました。

【下平市長】 検討委員会では4つの学園名が示されましたが、総合教育会議としては、委員からの意見もありましたように「志布志市立悠志学園」が相応しいということで決定してよろしでしょうか。

（賛同する声あり）

【下平市長】 それでは、特に異議もないようですので、学校名については、「志布志市立悠志学園」が適当であるということで判断することに決定をいたします。ありがとうございます。

【下平市長】 続いて、イの志布志市立学校条例の一部を改正する条例（案）についてを議題とします。事務局による説明をお願いします。

【児玉課長】 9ページの志布志市立学校条例の一部を改正する条例（案）について説明いたします。

令和8年度から志布志市立伊崎田小学校及び志布志市立伊崎田中学校を施設一体型小中一貫校とするため、同中学校の位置を改めることと、様々な理由で学校を欠席している児童生徒の学びの保障を実現するための義務教育学校を新たに設置することとしております。今回、学校条例の一部を改正し、その名称と位置を定めようとするものです。

新旧対照表で説明いたしますので、10ページを御覧ください。第1条は、中学校の後ろに義務教育学校を加えようとするものです。別表2の伊崎田中学校の位置を伊崎田8866番地から伊崎田8845番地1に改め、別表3として、新たに義務教育学校の表を追加しようとするものです。学校の名称が（仮）となっておりますが、先ほどの協議を受け「志布志市立悠志学園」と規定することになります。

附則の第2項において、暴力団排除条例第11条第1項中に義務教育学校を加え、附則第3項において、いじめの防止等に関する条例第2条第3号に義務教育学校を加え、第22条の同法第49条の次に第49条の8を加えるものです。

9ページにお戻りいただき、中段にあります附則の第1項ですが、この条例は、令和8年4月1日から施行するとしております。

以上で説明を終わります。

【下平市長】 ただ今の説明及び資料内容について、皆様からの御意見や御質問はありませんか。

【下平市長】 特に、質疑等もないようですので、協議した志布志市立学校条例の一部を改正する条例（案）については、原案のとおり了承するということによろしいですか。

（異議なしの声あり）

【下平市長】 特に、異議もないようですので、了承することといたします。

【下平市長】 それでは、最後の協議、ウの教育課程の改善についてを議題とします。事務局による説明をお願いします。

【淀 課長】 資料の12ページを御覧ください。教育課程の改善についてということで、この目的は、今日、不登校やいじめ、特別な支援を要する児童生徒への対応、深刻な教員不足など学校教育を取り巻く課題は多岐に及んでいます。これらのことを踏まえて、鹿児島県教育委員会から、令和7年9月10日付で、今後の教育課程編成の改善及び実施について通知が出されました。本市においても、活力に満ちた魅力ある学校づくりを推進するために、始業式・入学式の日程、土曜事業の在り方について、改善を図りたいと考えているところです。

鹿児島県教育委員会から発出された通知内容は、13ページから15ページに掲載しております。その中の14ページの2の授業時数の取扱いについてですが、(3)のイにある年度初めの就業日の設定の在り方など、学校経営方針の共通認識や十分な児童生徒理解を図る取組を検討することと明記されています。このことが、始業式・入学式について考慮する事項になっております。

続きまして、3の土曜授業についてですが、(2)のアに、授業は、土曜日の半日単位で地域と連携するなど、価値ある教育活動等に精選し、実施する場合は年3回程度までとし、教育課程に位置付ける

ことと明記されています。

以上のことを受けまして、資料の12ページに戻っていただき、1の入学式・始業式の期日について、現在は、どちらとも4月6日の同日に実施しております。子供たちが登校する前までに、学校経営方針の共通認識、そして十分な児童生徒の理解を図る必要があることから、4月1日以降から始業式までの少なくとも5日間の準備期間を確保してきたところです。また、担任と児童生徒が、信頼関係を築いていくことに繋げるためにも、入学式は別日としたいと考えています。

そこで、本市としては、十分な準備期間を確保するために、具体的な日程としては、始業式4月8日、入学式を4月9日に行えたら良いと考えているところです。

次に、土曜授業における現状についてですが、県下全市町村においては、年間10回程度を実施してきております。この土曜授業では、充実した学習、あと豊かな体験活動、地域との連携等など、多くの成果があったところです。本市においては、各学校で年間6回程度を実施してきたところです。

ただし、全国的に、この土曜授業は、マスコミ等でも取りあげられ、縮小又は廃止の傾向が進んできており、本県の教職員、保護者等からも縮小又は廃止に向けた意見が寄せられております。これらのことを受けて、本市においても内容を精選した上で実施したいと考えております。そこで、具体的な改善として、地域と連携した価値ある活動等に精選した上で、実施する場合は、年3回程度までが適切ではないかと考えております。

次に、スケジュールについてですが、入学式及び始業式の期日については、本日の総合教育会議で協議していただきまして、令和8年1月の定例教育委員会で審議し、管理規則等の改正ができればと考えております。また、土曜授業については、各学校において、その必要性を学校長が判断し、実施する場合は、年3回程度として、教育課程を編成するということで位置付けたいと考えているところです。

以上で説明を終わります。

【下平市長】 ただ今の説明及び資料内容について、皆様からの御意見や御質問はありませんか。

【松原委員】 これまでの入学式・始業式というのは、準備期間が短いということもあり、学校も保護者も慌ただしい雰囲気がありますが、変更されれば少し準備期間が延びますので、その分、校長先生も学校の経

営方針について先生方と共有する時間が作れるのではないかと思います。

【下平市長】

他に何か御意見等はありませんか。

特に、何もないようですので、協議した「教育課程の改善」については、始業式を4月8日、入学式を翌9日とし、土曜授業は年3回程度ということで原案のとおり改めることに了承するという事でよろしいですか。

(異議なしの声あり)

【下平市長】

特に、異議もないようですので、了承することといたします。

以上をもちまして、日程にある全ての協議を終了したいと思います。御協力ありがとうございました。

○ その他

【鮎川課長】

ありがとうございました。

それでは、会次第4のその他についてですが、委員の皆様から何かございますか。

(特に意見等なし)

○ 閉会

【鮎川課長】

以上をもちまして、令和7年度第2回志布志市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

午後4時35分 閉会

会議録署名

志布志市長 下平晴江

教 育 長 福田 裕生

教育委員 松原 治美

教育委員 島津 陽亮

教育委員 津町 千代子

教育委員 益田 裕子